

子ども支援研修会

子どものニーズに合わせて

子ども支援室では、教職員のみなさんを対象に、子どもたちの抱える発達や行動等の問題に対応するためのヒントになるような研修会を開催しています。

今年度は6月、11月、1月の3回設定し、多くの教職員のみなさんに御参加いただきました。困り感を抱えている子どもたちや保護者のみなさんに寄り添い、個々のニーズに添えていきたいという思いが研修後のアンケートから伝わってきました。

来年度も子どもたちや保護者のみなさんを支える教職員の方々との連携を大切にし、研修会を通じて共有したことを相談・支援事業にも生かしていきたいと思えます。

6/22「衝動的な子への対応」
～人と関わりながら学ぶ～

NPO フトゥーロ

LD 発達相談センターかながわ 三島節子氏

発達障害をもつお子さんの特性の理解と適切な対応の大切さについて学びました。



「目で見てわかる支援」
「自分の命令通り体を動かす力」
「聞く力」

この三つを意識して関わりの中で学ぶための具体的な手立てを示していただきました。

11/6「学習障害の子どもへの対応」
～読み書きが苦手な子への支援～

常葉大学 保育学部 講師 赤塚めぐみ先生

学習障害をもつお子さんが、自尊心の低下を起さず、本来持っている能力を發揮できるような支援方法について学びました。幼児期に「話す」「聞く」力をつけること、小・中学校期に「何を」「どのように学ぶか」を個々のニーズに合わせて対応を提示していただきました。



1/29「不登校の子どもへの対応」

静岡大学教職大学院 准教授 伊田勝憲先生

不登校という状況に陥っているお子さんと保護者の理解・対応の視点を学びました。不登校の要因は連鎖・重複していること、不適応の状況に合わせた合理的配慮の必要性、社会的適応よりも自己適応を優先させること、ユニバーサルデザインの授業と教育的配慮の日常化など、学校体制で早期に対応することの重要性を教えてくださいました。



<参加者の感想>

課題ばかりを取り上げて対応するのではなく、たくさんの強みを見つけて生かす保育ができるようにしたい。見通しをもち、予測した上で対処を考え、成功体験につなげたいと思う。(保育士)

困っている子を、無理やり自分の思っている方向に導こうとして、毎日焦っていた私自身を反省した。全ての子が「学びたい」という気持ちを持ち続けられるように「支援のポイント」を学ぶ教師でありたい。(小学校教諭)

不登校は複数の要因が重複して起こり、日々変化もしていると聞き、対応の困難さを改めて感じた。「本人に強みや土台があれば、矢が刺さったままでも進んでいける」という先生の言葉を道標に、生徒個々の困り感にチームで対応していきたい。(中学校教諭)

支援研修会 参加人数	保育園	幼稚園	小学校	中学校	その他	合計
第1回6/22	26	75	4	1	12	118
第2回11/6	8	15	21	8	2	54
第3回1/29	7	2	12	9	5	35
	41	92	37	18	19	207

今年度12月末までの子ども支援室への相談件数は、3238件（実人数481人）でした。相談内容で多かったのは「人との関わりの手さ」「子どもの激しい言動」「集団活動の手さ」などへの対応についてでした。お子さんの困り感に、迷いながらも日々対応していらっしゃる保護者や家族、指導者のみなさんと情報を共有し、より良い支援について共に検討してきました。今後も子どもたちの健やかな成長を支えるお手伝いをさせていただきたいと思えます。

